占いとウラあり ＝講座篇＝

竹村亞希子

いつか訪れる墜落の日

さて、何もかもうまくいく時代が飛龍である。だが、世の中そんなに甘くはない。好事魔多し。

有頂天は天の頂きに有り。頂があれば、谷がある。

変化。

空を天翔る飛龍にとっての変化とはいつか訪れる墜落の日である。

飛龍は陽が強く強く極まっていく。ここで心掛けることは、自分の中に陰を生じさせ、陰を育てることだ。

そして、それは突然やって来る。何の前触れもなく。飛龍はある日突然「亢龍」になる…。

これは自然の摂理である。良寛の言葉にこんなものがある。「災難にあう時はあうが良く候、死ぬ時は死ぬが良く候」

ここで龍の話の復習というか再確認をしておくことにする。

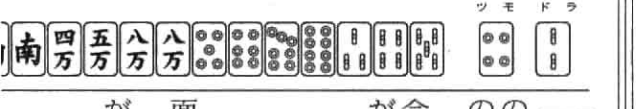
まず潜龍から始まり、見龍へと進化し、君子終日乾乾。そうして躍龍となり、ついには飛龍へと昇り詰める。飛龍は世の中に恵みの雨を降らし、天空を悠々と泳ぎ、やがては降り龍の亢龍となるのである。

それぞれの龍には大切な役割がある。焦ることなく、出すぎることなく、あるいはちゅうちょすることなく、それぞれの段階の役割を全うすることによって、人生はより輝かしいものとなるはずだ。

と、まとめてみたが、これは、竹村亞希子流の『易経』の読み方である。このことを忘れないでほしい。＝次回（11日掲載）で連載を終わります。

何を切る？ 実戦麻雀

ツモ　ドラ



問題　南場1局。260点のプラスで2位の南家。トップとは6300点の差。

追加点を得て親番を迎えたい今局はドラが🀙。連風牌の🀁が欲しい6巡目に🀜🀜入手の場面。

ここで次の応手が考えられるが、どう構えるのがいい？

❶🀜🀜切り
❷🀇切り
❸🀁切り

解答は左下に

解答

❶年前

【6月10日】

年金問題対応の全国130カ所の社会保険事務所で2時間半、システム障害